

小論文課題

日本人はコミュニケーションにおいて、メッセージの真偽や当否よりも、相手がそれを信じるかどうか、相手がそれを「丸呑み」するかどうかを優先的に配慮する。もちろん、どんな言語でも、メッセージの発信者と受信者の関係がどういふものか（二人は仲がいいのか悪いのか、それは上位者からの命令なのか、下位者からの懇願なのか、などなど）はコミュニケーションのあり方を決定する重要な条件です。けれども、それにしても、コミュニケーションの最初から最後までそのことばかり考えているという国語は希有^{けう}でしょう。

私たちの国の政治家や評論家たちは政策論争において、対立者に対して「情理を尽くして、自分の政策や政治理念を理解してもらおう」ということにはあまり（ほとんど）努力を向けません。それよりはまず相手を小馬鹿にしたような態度を取ろうとする。テレビの政策論議番組を見ていると、どちらが「上位者」であるかの「組み手争い」がしばしば実質的な政策論議よりも先行する。うっかりすると、どちらが当該論件について、より「事情通」であるか、そのポジション取り争いだけで議論が終わってしまうことさえあります。自分の方が「上位者」であることを誇示するためには、いかにもうんざりしたように相手の質問を鼻先であしらって、「問題はそんなところにあるんじゃないんだ」と議論の設定をひっくり返すことが効果的であるということを知っているのだから「誰がいちばん『うんざり』しているように見えるか」を競うようになる。お互いに相手の話の腰を折って、「だから」とか「あのね」とかいう「しかたなしに専門的知見を素人にもわかるように言ってあげる上位者の常套句^{じょうとうく}」を差し挟もうとする。

出典：内田 樹「日本辺境論」“辺境人は日本語と共に”より抜粋、P.216～217ページ、
2009年11月20日発行 株式会社新潮社

【課題】上の文章において、著者は「日本人のコミュニケーション」にどのような特性があると考えているのか、本文中の言葉を用いてまとめて説明した上で、その著者の考えに関して、あなたの考えを741字以上800字以内で論述しなさい。